

CITY X UNIVERSITY



大阪市立大学広報誌

Vol.17

February • 2015

Vol.17 CONTENTS

●P1 特集

三大学学生 研究討論会

～「三商ゼミ」とは何か論じよ～

●P3 OCU NEWS BOX

NBI内視鏡による早期食道がんの発見
摘出困難な脳腫瘍に対する治療効果判定における新たな評価方法を確立
オープンナガヤ大阪2014を開催!
ほか

●P5 大学トピックス

平成26年度大阪市立大学顕彰式典・第13回ホームカミングデーを開催!
2014中国国際工業博覧会高校展区への出展・上海ホームカミングデーを開催!
ジャカルタ支部同窓会を開催・「JAPAN OSAKA 留学フェア IN インドネシア」に参加!
ほか

●P8 @ Campus 【アットキャンパス】

「サポニワ」がオープンしました!
「感染症災害訓練」を実施!
ボート部が全国大会で銅メダルを獲得!!
市大生プロボクサー誕生! そしてデビュー戦勝利!!
ほか

●P10 OCUインフォメーション

夢基金だより
就職支援情報

特集

三 大 学 学 生 研 究 討 論 会



Osaka City University



Hitotsubashi University



Kobe University

～「三商ゼミ」とは何か論じよ～

※正式名称は「三大学学生研究討論会」ですが、「三商大ゼミ」「三商ゼミ」などの名称が通称として使われています。



三商大とは？

三商大とは、大阪市立大学、神戸大学、一橋大学のことを指し、これらの大学の前身機関は、それぞれ高等商業学校から大学令による大学へと昇格した東京商科大学(旧東京高等商業学校)、神戸商業大学(旧神戸高等商業学校)、大阪商科大学(旧大阪市立高等商業学校)です。

現在もその伝統を引き継いでおり、三大学間でのスポーツの交流試合「三大学体育大会」や、共通する学科のゼミが参加する「三大学学生研究討論会」が開催されています。

さらに、平成22年2月には、三大学間の交流をより一層発展させ、三大学の教育や学術上の連携・協力を推進していくことについて合意し、新たに教育交流協定が締結されました。



三大学学生研究討論会の歴史

三大学学生研究討論会とは、三商大の社会科学系学部のゼミ対抗で毎年行われる討論会です。日本で最も歴史のある大学間ゼミ対抗討論会で、昭和26年12月14日・15日の両日に大阪市立大学で記念すべき第1回が開催されました。



研究討論報告書 (左:第25回、右:第43回)

商学・経営学、経済学、法学・政治学(社会学を含む)の3部門からなり、相互の知的精神を刺激し合うと同時に親睦を深める良い機会となっています。毎年、幹事校に当たっている大学の学生が主体となって企画・運営を行い、5月に説明会、6月にエントリー、7月に討論の組み合わせの決定を経て、11月下旬に本番を迎えます。

平成26年度は大阪市立大学杉本キャンパスで第64回が開催され、三大学の学生約750名が参加し、そのうち市大生は約300名でした。

ちょこっと豆知識

三大学体育大会とは体育系クラブによる対抗競技で、明治40年代初めから始まり、旧制高商時代・旧制商大時代を経て、新制大学になってからも「三商大戦」・「三大学戦」として引き継がれました。昭和36年に正式に大会規定を定め、第1回を開催。第54回目となる今年度の大会は、平成26年6月から12月にかけて開催されました。

『三商大新聞』(平成2年11月13日発行号)



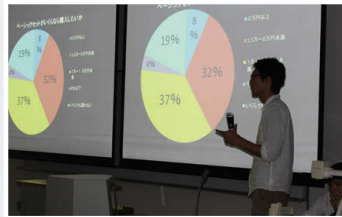


討論会当日の様子

今年度は、平成26年11月29日(土)・30日(日)の2日間を中心に、「三商ゼミ」とは何か論じよ」というキャッチフレーズのもと開催され、78グループが参加しました。

それぞれのゼミが試行錯誤し、討論会に向けて積み上げてきたハイレベルな研究成果を多くの人の前で披露し合い、それに対して盛んな質疑応答が行われました。長時間に及ぶ討論会にもかかわらず、出席者は最後まで集中して互いの発表内容に耳を傾けていました。

年に1度しかない学生主導の大きなイベントということもあり、参加学生全員が完全燃焼し、討論会終了後の懇親会ではお互いの勇姿を讃えあいました。



熱心に発表を行う学生たち

参加者 voice @市大

三商大学生討論会
準備委員会 委員長
経済学部3年生

もりうら ひろき
森浦 大貴さん



これまでの学生生活では部活動が大半を占めていたため、学業の方でも卒業するまでに何か大きな事に携わってみたいと思い、今回討論会の委員長に立候補しました。

今年は市大での開催でホスト校ということもあり、その分責任も大きかったですが、昨年の委員長からアドバイスをもらったり、委員会メンバー全員で従来の運営方法や広報などの改善を図った結果、より多くの他大学ゼミの招致が実現できました。

この討論会に参加したことで、学部・学年を問わずさまざまな委員会メンバーと知り合うこ

とができ、また、他大学の運営委員の方とも密に連絡を取り合うことで新たなコミュニティができるなど、とても良い経験になったと思います。運営するにあたり、面倒なことや大変なことも多々ありましたが、今となっては、大きな組織を統括するという貴重な経験ができ本当に良かったと感じています。

三商大学生研究討論会は市大の文系学部の学生にとっては大きなイベントです。今後も多くの方に参加してもらい、これからも三商大学生研究討論会の歴史を繋いでいってほしいと思います！

現在では1日だけ開催するゼミが多い中、法学部の刑法グループは伝統的な「2日間開催」で、事例問題に沿って刑事法・刑事訴訟法・刑事政策についてゼミごとに解答を出し合い討論しました。

当日は、学生だけでなく教員も参加して討論を行い、普段会うことのないゼミとの対戦でとても良い刺激になりました。1日目は約6時間、2日目は約3時間という長丁場でしたが、みんな集中力を切らさずにやり遂げました。

終了後の懇親会では、お互いのゼミでの取り組みなど、さまざまな情報交換をして親睦を深めました。



法学部3年生

こしむら ゆき
越村 友貴さん
三島ゼミ

一番大変だったことは、商学部のゼミのマッチングを行う際、市大ゼミだけの組み合わせを作らないように、全てのゼミが他大学と討論を行えるように調整をしたことです。市大の参加ゼミが非常に多かった為、調整は難航しましたが、なんとか各ゼミを満遍なく割り振ることができました。

一橋大学・神戸大学と討論を行う機会は減多にないので、大学間の交流を更に深めることも目標の1つにしていますが、討論会後の懇親会で互いの発表内容を振り返りながら親睦を深めることができたので大成功だったと思います。



商学部3年生

さかぐち たつや
坂口 達哉さん
中瀬ゼミ

私はこの討論会に参加するにあたり、討論会のテーマである「香川県の直島」に現地調査に行きました。事前に直島について調べていたのですが、現地に行ってみると、インターネットだけでは知ることのできない「自分たちが直接見て感じたこと」や「町の人に直島の観光業についての想いを聞いたこと」など、貴重な情報を手に入れることができました。

討論会の事前準備は時間がなくてバタバタでしたが、調査のために自分達だけで現地に外向き、そこから様々な情報を得て討論会に万全の態勢で挑むことができ、とても良い経験になりました。



経済学部3年生

にった あさみ
新田 麻美さん
長尾ゼミ

1 NBI内視鏡による早期食道がんの発見

医学研究科の永見康明^{ながみ やすあき}講師らのグループは、狭帯域光観察(narrow band imaging:NBI)*という新しい内視鏡システムを使うことにより、ヨード剤使用の検査と同じくらいの精度で食道がんを発見し、診断できる効果があることを明らかにしました。その結果、患者さんの負担を軽減しながらも、食道がんを早期発見・早期診断できることが分かりました。これにより、食道がんを根治するような早期治療を行うことができ、予後の改善に結びつくのではないかと考えられます。

NBI内視鏡はヨード染色法と同等もし

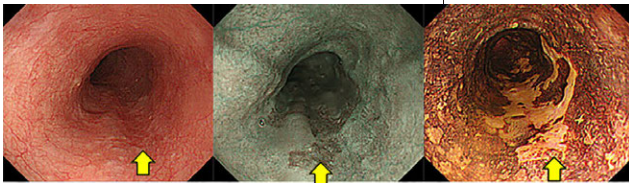
くはより高い診断精度が得られるとされていますが、ヨード染色法よりも若干感度が落ちるとされており、NBI内視鏡のみで長期的に経過観察した場合に食道がんを見落としてしまう可能性があるかもしれません。そこで、食道がん内視鏡切除後の患者にNBI内視鏡のみを用いて長期間経過観察を行い、異時性再発病変を内視鏡治療が可能な早期に診断することができるかを検討するため、現在、前向き臨床試験を行っています。

手術の様子



医学研究科
永見康明 講師

NBI内視鏡による画像



白色通常光

NBI内視鏡

ヨード染色

- 発表雑誌：米国消化器病学会雑誌「American journal of Gastroenterology」
- 論文名：Usefulness of Non-Magnifying Narrow-Band Imaging in Screening of Early Esophageal Squamous Cell Carcinoma: A Prospective Comparative Study Using Propensity Score Matching
早期食道扁平上皮癌に対する非拡大NBI内視鏡によるスクリーニングの有用性：疑似ランダム化を用いた前向き比較試験
- 著者：永見康明、富永和作、杉森聖司、荒川哲男 ほか
- 論文掲載URL：<http://www.nature.com/ajg/journal/v109/n6/full/ajg201494a.html>
(米国東部時間 平成26年4月22日(火)午前9時 電子版で公開)

*狭帯域光観察(narrow band imaging:NBI) 従来の内視鏡の光源は、400~800nmの様々な波長光混在した白色光。NBIシステムは特殊なフィルターを用い、粘膜表面で反射する短い波長光の特殊な光で内視鏡観察するシステム。

2 摘出困難な脳腫瘍に対する治療効果判定における新たな評価方法を確立

医学研究科脳神経外科学の^{おおはた}大畑建治教授らのグループは、脳深部に発生する良性脳腫瘍に対する治療効果判定において、世界標準となりうる評価方法を確立しました。対象となっているのは錐体斜台部髄膜腫といわれる脳腫瘍で、多くの神経や脳深部の重要な血管を巻き込みながら発育する特徴があり、脳腫瘍の中でも摘出が最も難しい腫瘍です。

錐体斜台部髄膜腫は頻度が少なく、多数の症例を経験している施設はほとんどないため、一般的な手術危険度や合併症

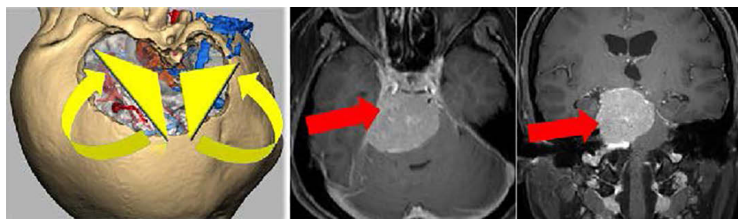
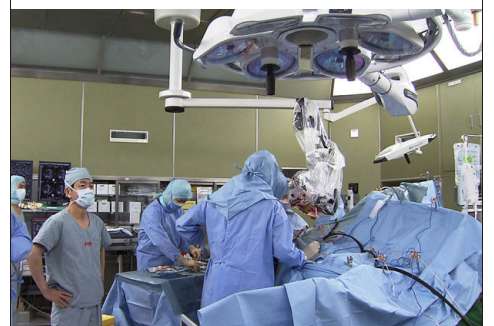
の程度は分かっていません。今回、神経症状の重度に応じた総合的な脳神経機能の評価スケールを用いることで、頭蓋底部病変に対する治療の客観的評価を仔細に渡って標準化することに成功し、世界標準となりうる評価方法を提案しました。この新たな評価方法は、さまざまな治療の有効性を検討する上で臨床現場や臨床研究で用いることができ、この評価方法を普及させることにより、日本国内・外の錐体斜台部髄膜腫の治療成績を向上させることが期待されます。そして、この評価方

法の要旨は、平成26年8月にサンフランシスコでの第9回国際髄膜腫学会の理事会において取り上げられ、学会の推進事業の一つにすべきであることが審議されました。また、ピッツバーグ大学からはこの評価方法を採用する旨の連絡が届いています。なお、大畑教授は平成28年から国際髄膜腫学会の理事長に就任することが決まっています。

医学研究科
大畑建治 教授



手術の様子



経錐体到達法の
手術経路

- 発表雑誌：「Journal of Neurosurgery」
- 論文名：Petroclival meningiomas resected via a combined transpetrosal approach: surgical outcomes in 60 cases and a new scoring system for clinical evaluation
合併経錐体到達法による錐体斜台部髄膜腫：60例の手術成績と新たな臨床評価方法
- 著者：大畑建治、森拓拓貴、後藤剛夫
- 論文掲載URL：<http://thejns.org>
(米国東部時間 平成26年11月7日(金)午前10時 電子版で公開)

オープンナガヤ大阪2014を開催!

平成26年11月8日(土)・9日(日)の両日、生活科学研究科の藤田忍教授・小池志保子准教授らが主管するオープンナガヤ大阪2014実行委員会が、大阪市内7区20ヶ所以上の長屋において、改修・活用事例を一斉公開するイベントを開催しました。

このイベントは「暮らしびらき」をテーマに、大阪長屋への理解や愛着を深めていただくことを目的としており、大阪にある複数の長屋を同時多発的に公開し、かつての古き良き長屋で暮らし続けている方々のナガヤライフを紹介するものです。これらの長屋は、住居としてだけでなくカフェやアトリエを併設するなど、現代のライフスタイルに合わせた魅力的な暮らし

の場となっています。

また、大阪市立大学によって再生された長屋群も公開し、再生デザインがグッドデザイン賞・サステナブルデザイン賞を受賞した豊崎長屋(北区・豊崎プラザ)

や、1棟全体を耐震補強し、シェア居住可能な賃貸住居として再生した須栄広長屋(生野区)の事例など、さまざまな活用事例をご覧ください。

オープンナガヤ2014の様子



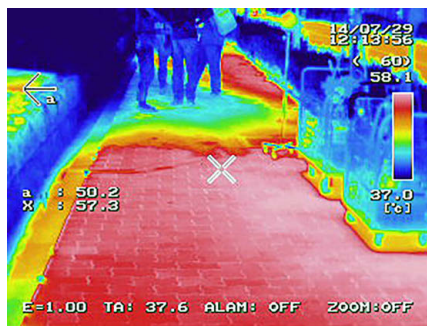
大阪の街路樹計画に研究成果を還元!

工学研究科の鍋島美奈子准教授はヒートアイランド対策の研究を行っており、得られた成果を地域に還元する活動にも積極的に取り組んでいます。

なかでも、大学の地元で計画されている都市計画道路「天王寺大和川線」が風薫る緑豊かな道路として生まれ変わるよう、行政や地域住民・学生などと協働しています。「天王寺大和川線」の建設予定場所は、現在借り囲いのフェンスで覆われ、地面はアスファルトで固められているため、今後10年以上にわたり設計・施工・完成後の維持管理の変遷を記録し、環境

改善の効果を実証していく予定です。

また今年度は、杉本キャンパス周辺の街路樹などを地域資源と見なしてクールスポットマップを作成するために、街路樹の微気象緩和効果の検証も行っています。これらの活動を継続的に実施することで、本学が変わりゆく地域環境のアーカイブとしての機能を果たすことができると考えていま



工学研究科
鍋島美奈子 准教授

街路樹の木陰における
熱環境緩和効果の計測

す。このような鍋島准教授の取り組みが評価され、平成26年度「大阪市環境表彰」個人の部で表彰を受けました。

ハトを対象に「待つことの心理」を研究しています!

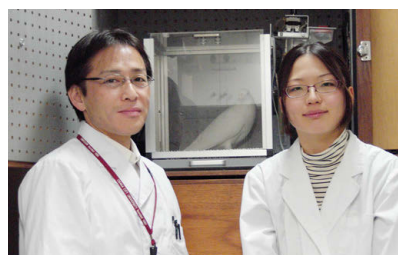
文学部心理学教室では、ハトを対象とした“待つことで報酬の価値が低下する「遅延割引」という研究をしています。

“すぐにもらえる14個のエサ”と“4秒後の14個のエサ”の間で選べるとハトは前者を好みますが、前者のエサの個数を減らしていき6個の時に選択割合が50%になったとすると、このハトにとって“4秒待たされることでエサの価値が半分以下になった”と考えることができます。

このような実験を他の遅延時間についても行い、横軸に遅延時間、縦軸に選択割合が50%の時のエサの個数(価値)を

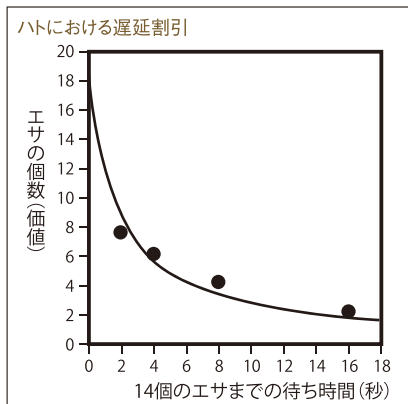
とったものが図の黒丸で、遅延時間によってエサの価値が下がる様子が分かります。曲線はハトを対象とした研究で提案された遅延割引曲線ですが、ヒトのデータにも当てはまる事が示されています。

遅延割引は衝動性に深く関係して



佐伯大輔准教授(左)と4年生の藤原美香子さん(右)

り、今後、浪費や薬物依存など、ヒトの衝動性に関する問題への応用が期待されています。



■ 平成26年度大阪市立大学顕彰式典・第13回ホームカミングデーを開催!

平成26年11月3日(月・祝)、学術情報総合センター10階 大会議室にて「平成26年度大阪市立大学顕彰式典」が開催されました。この式典は、学長から学業成績優秀な学生を、教育後援会長から本学の教育レベル向上に寄与した教員をそれぞれ表彰するものです。学生表彰は、学部2年生を対象にしたもので、成績が極めて優秀な学生35名に「学修奨励賞」が贈られました。教員表彰は、優れた教育を行った教員2名に「優秀教育賞」が、また、優れた教科書を出版した教員ら4件に「優秀テキスト賞」が贈られました。

また、同日、「懐かしい。は、新しい。～生

まれかわった市大キャンパスへかえろう～」をキャッチフレーズに、杉本キャンパスにおいて「第13回ホームカミングデー」が開催されました。OTクラブ総会では、本学を退職された教員の方々と学長はじめ役員及び研究科長らが親睦を深めました。また、今回学長から名誉教授に感謝の意を表して「名誉教授記章(バッジ)」が贈呈され、出席者の注目を集めました。

午後からは、ホームカミングデー講演会やウェルカムパーティーが開催され、生活

科学部卒業生の藤沢久美氏(シンクタンク・ソフィアバンク代表)の講演や、商学部卒業生で有恒会会長の尾山基氏(アシック代表取締役社長CEO)のあいさつなどがあり、出席者一同、母校を懐かしみました。

西澤学長の
あいさつ



顕彰式典での集合写真



藤沢久美氏の
講演風景



有恒会会長
尾山氏のあいさつ



■ 2014中国国際工業博覧会高校展区への出展・上海ホームカミングデーを開催!

平成26年11月4日(火)から8日(土)の5日間、中国・上海新国際博覧中心で開催された中国最大級の国際工業製品展示会「2014中国国際工業博覧会高校展区」に出展しました。「大阪市立大学の『都市科学』～環境都市と産学官連携～」をテーマに、研究内容や企業との共同研究の成果を本学在籍中の中国人留学生が中心となってアピールしました。また、出展内容と積極的な取り組みが評価され、中国国際工業博覧会高校展区組織委員会から、日本の大学で唯一「特別参展奨」が授与されました。

上海には本学卒業生が多く、同窓会活動が活発に行われている地域で、11月5日(水)に「上海ホームカミングデー」を開催しました。初めに、宮野副学長から大学の近況報告があり、その後、上海友好会の平松徹会長からのあいさつ、原田利明氏から本学美術部学生の上海芸術展への出展案内があり、王亜副会長の乾杯のご発声により懇親会がスタートしました。本学卒業生・関係者をあわせて約50名が参加し、大いに盛り上がりました。

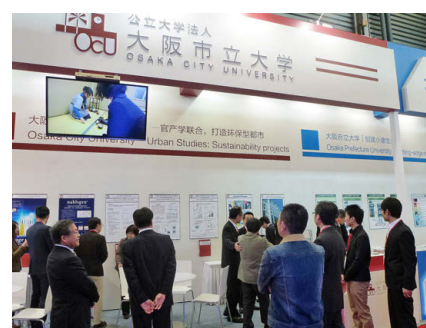


「特別参展奨」受賞



上海ホームカ
ミングデーの様子

上海工業博覧会の様子



■ ジャカルタ支部同窓会を開催・「JAPAN OSAKA 留学フェア IN インドネシア」に参加!

平成26年9月19日(金)、インドネシアのジャカルタ市内にて開催された「大阪市立大学ジャカルタ支部同窓会」に宮野副学長が参加し、大学の近況報告を行いました。ジャカルタ支部からは三好克治名誉会長ら約10名の同窓生が参加し、懐かしくも新鮮な話を興味深く聞き入っていました。

翌日には、ジャカルタから約200キロ離れたバンドンへ移動し、大阪府主催の留学生イベント「JAPAN OSAKA 留学フェア IN インドネ

シア」に参加しました。イベントには約4000名が来場し、本学のブースにも100名近くの来場者があり、大盛況のうちに終了しました。

留学フェアで市大ブースを訪れた現地の方との記念撮影



宮野副学長(中央)とジャカルタ支部のみなさん



■ 西澤学長がハンブルク大学・サントペテルブルク大学を表敬訪問



ハンブルク大学を訪問した西澤学長

平成26年9月21日(日)から28日(日)までの8日間、西澤学長が本学と大学間学術交流協定を締結しているドイツのハンブルク大学及びロシアのサントペテルブルク大学を表敬訪問しました。

ハンブルク大学とは20年以上にわたり相互交流を続けており、今後の交流のあり方な

協定書にサインをする西澤学長



どについて協議しました。また、サントペテルブルク大学とも同様に30年以上にわたり交流があり、今回は協定期間を更新するために、新しい協定書の調印式を行いました。

■ ベトナム国家大学経済経営大学と大学間・部局間協定を締結

平成26年11月6日(木)にベトナム国家大学経済経営大学からNguyen Hong Son学長が来学され、大学間並びに部局間協定の調印式を執り行いました。今回は大学間協定の他に、商学部・経営学研究科とも部局間協定を締結し、調印後の意見交換会では交流についての積極的な提案がなされました。

協定締結の様子



■ 「チェンマイ大学留学体験@市大」を開催!

平成26年11月5日(水)、6日(木)の2日間、学内にて「チェンマイ大学留学体験@市大」が開催されました。これはタイのチェンマイ大学の留学プログラムを紹介するイベントで、ムエタイの実演や伝統的な切り紙細工の体験、タイのスナック菓子の試食などが行われました。本学学生の希望者は、春休みにチェンマイ大学語学研修センターで開講される英語学習プログラムに参加できます。

タイのお菓子の試食風景



■ ベトナム新総領事が西澤学長を表敬訪問

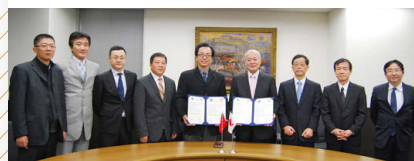
平成26年11月20日(木)にベトナムのTran Duc Binh新総領事が西澤学長を表敬訪問し、現在のベトナム人留学生について、また今後の本学とベトナム諸大学との交流のあり方について意見交換を行いました。



ベトナム新総領事との意見交換会

■ 医学部が大連大学と協定を締結

平成26年12月17日(水)、中国の大連大学の宋副学長らが医学研究科を訪問され、教育・研究分野での親交と協力を促進するとともに、教育交流の基盤を拡大し交換留学を開始すること



締結後の集合写真

を目的として国際学術交流協定を締結しました。また、医学研究科 荒川研究科長が大連大学の客員教授に任命されました。



■ 工学研究科が大阪府都市整備部と包括協定を締結!

平成26年11月25日(火)、工学研究科が大阪府都市整備部と、技術連携に関する包括協定を締結しました。大阪府内の都市基盤施設は高度経済成長期に集中的に整備されたため老朽化が懸念されており、長期にわたりの確かつ効率的・効果的に維持管理・更新していくことが重要な課題です。今後は維持管理に関する情報及びノウハウの共有や研修を通じて、技術連携や人材育成等に取り組めます。



調印式の様子
工学研究科長(右)と大阪府都市整備部長(左)

■ 法科大学院10周年記念イベントを開催!

平成26年11月29日(土)、法学研究科法曹養成専攻創立10周年記念講演会が開催されました。この講演会は、これまで法科大学院を支えてくださった有恒法曹会をはじめとしたOB・OGの皆さまへの感謝の意と、今後の発展を願って開催されたもので、本専攻で長らく教鞭を執ってくださった、本学名誉教授の松本博之氏と元法学研究科教授で弁護士まつかわの島川勝氏まつかわにご講演いただきました。講演終了後には祝賀パーティーが開催され、大いに盛り上がりました。



講演会の様子

■ 「生きている化石 メタセコイアの系譜」を開催!

平成26年11月21日(金)、都市研究プラザの岡野副所長主導のもと理学部附属植物園にてセミナー「生きている化石 メタセコイアの系譜」を開催しました。また、北京大学の胡徳昆教授アベック(中国に現存していたメタセコイアを認定(同定)された胡先驥教授のご子息)が来園され、講演及び園内の見学をされました。今回のセミナーを通じて改めてメタセコイアの歴史の奥深さや魅力に引き込まれました。



戦後すぐに日本に送られたメタセコイア100本のうちの1本と記念撮影をする胡徳昆教授(左)と飯野園長(右)

■ 外国特派員向けプレスツアーを実施!

平成26年12月18日(木)、関西地域振興財団主催の外国特派員向けプレスツアーが実施され、中国・デンマーク・ドイツ・香港・シンガポール・スイス・台湾等11カ国・地域の新聞雑誌・TVメディア在京特派員が本学を訪問しました。大学の概要を説明した後、人工光合成研究センター、MedCity21の見学、また健康科学イノベーションセンターでは疲労度測定を体験していただきました。今後も国際広報活動を強化し、本学の魅力を広く海外に向けて発信していきたいと考えております。



人工光合成研究センターの概要説明

■ 「かたのキャンパス」を開催!

平成26年12月23日(火・祝)に、理学部附属植物園にて「かたのキャンパス 森からのプレゼント2014~植物園のクリスマス~」が開催されました。当日は天候にも恵まれ、約5,000人の方が来園しました。園内ではマルシェやワークショップなどさまざまなイベントが開催され、子供からお年寄りまで楽しんでいただける1日となりました。



オープニングセレモニーとイベントの様子

■ 第60回記念定期演奏会を開催!

平成26年12月25日(木)、交響楽団が「ザ・シンフォニーホール」にて第60回記念定期演奏会を開催しました。当日はホールが満席になるほど盛況で、部員が一丸となり、伝統を受け継ぎつつも新しさを取り入れた熱い演奏を披露しました。



本番前の練習風景

「サポニワ」がオープンしました!

平成26年11月より、「学生が自由に使える空間」をコンセプトに、学生サポートセンターの中庭・愛称「サポニワ」がオープンしました。オープンに先がけて、10月31日(金)の昼休みにオープニングイベントが開催され、学長のあいさつ及び除幕式が行われました。その後、制作者を代表して工学研究科修士2年の塩原裕樹さんからプレゼンテーションがあり、参加者一同「サポニワ」利用のイメージを膨らませました。また当日は交響楽団による演奏も披露され、大学に新しく「学生による学生のための空間」ができたことを印象づける素晴らしいセレモニーとなりました。



交響楽団の演奏



サポニワ制作チーム



塩原さんのプレゼンの様子

【サポニワの利用方法の詳細はこちら↓】

<https://www.portal.osaka-cu.ac.jp/ja/gakumu-gakusei/gakumukikaku/nhxytt/4hs60g-1>
※学内者向けのポータルサイトに掲載のため、外部の方はご覧いただけません。

「感染症災害訓練」を実施!

平成26年12月22日(月)、医学部附属病院にて、感染制御部の掛屋弘教授主導のもと「感染症災害訓練」が実施されました。当院は第一種感染症指定医療機関ではありませんが、新型インフルエンザ等特措法の大阪府の指定地方公共機関であり、今後の新たな感染症に対する大学病院としての対応が期待されています。

今回の訓練は、大阪市保健所と連携して一類感染症疑いの患者さんを搬出するというもので、院内にウイルスを拡散させないための対策や感染ゴミの処理方法などのシミュレーションを行い、本番さながら

訓練責任者の掛屋教授



の緊迫した訓練となりました。訓練終了後には、感染対策研修会「エボラ出血熱〜アフリカでの診療に学ぶ〜」と題し、西アフリカでエボラ出血熱の診療に携わった国立国際医療研究センターの加藤康幸氏にご講演いただき、医学研究科及び医学部附属病院の職員(約450名)が参加しました。

今後、地域の頼れる大学病院として、この訓練を活かしより一層、医療の質の向上に取り組んでまいります。



カプセル型ストレッチャーで搬出される様子



満席の研修会開場



訓練中の院内風景

国際発信力に富んだ人材の育成を目指して!

文学研究科インターナショナルスクール(IS)では、学部生・大学院生・ポスドク研究者に向けて、外国語で学術的なコミュニケーションを行う力をつけるための授業やプログラムを提供しています。

学部生・大学院生対象の「IS集中科目」では、英語の授業を聴いて質疑やディスカッションを英語で行う授業を、大学院の「アカデミック・コミュニケーション演習」ではプレゼンテーションやライティングの訓練を、また、ドクター以上の若手研究者には研究発表を英語で行うための訓練として「トレーニング・プログラム」を実施し

ています。これ以外にも外国語で論文を書く際の校閲や海外の研究者による講演会への補助を行っています。

さらに国際的発信と交流の機会として、平成25年より「IS研究交流セミナー」を開催しており、平成26年11月にはイリノイ大学で近世ヨーロッパ史を研究されているコスロフスキー教授の講演と、文学研究科の北村昌史教授、長尾唯さん(西洋史専攻)、岩本佳子さん(UCRC研究員)による発表や意見交換が行われました。



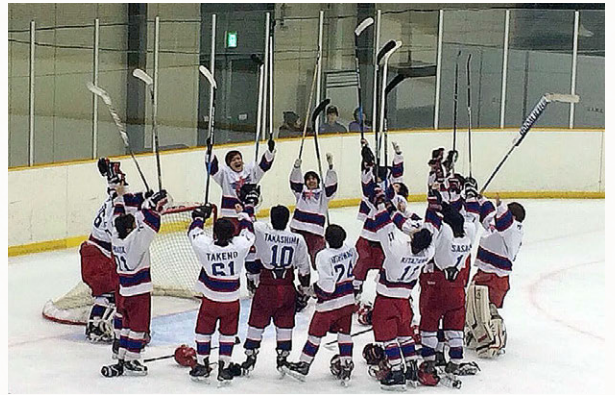
コスロフスキー教授の講演風景

ボート部が全国大会で銅メダルを獲得!!

平成26年10月3日(金)～5日(日)に、埼玉県の戸田ボートコースにて行われた「第55回全日本新人選手権大会」男子舵手付きフォアにおいて、ボート部が決勝に進出し、第3位に入賞しました。全国規模の大会でメダルを獲得したのは、124年の歴史を誇る本学ボート部史上初の快挙です!



アイスホッケー部が1部Bリーグに昇格!!



平成26年9月より、約2ヶ月間にわたり開催された「第61回関西学生アイスホッケーリーグ戦」の2部リーグにおいて、アイスホッケー部が見事優勝し、1部Bリーグに昇格しました。1部リーグに昇格したのは約10年ぶりで、本学アイスホッケー部史上2度目の快挙です!

市大生プロボクサー誕生! そしてデビュー戦勝利!!

工学部機械工学科4年生の坂本真宏さかもと まさひろさんが、平成26年12月28日(日)に住吉区民センターにて開催された「日本スーパーウェルター級タイトルマッチ」でプロデビューしました!

坂本さんは大学に入学してからボクシングを始めましたが、アマチュアでの戦績はフライ級で24勝6敗と素晴らしく、また全日本選手権大阪代表にも選ばれた実績があります。元々ボクシングが好きで、よくテレビで観戦していたそうですが、ボクシング部に入部しようと思った決め手は、“長谷川穂積選手の試合を見て感銘を受けたから”だそうです。プロデビューが決まった際には、桐山副学長にデビューの報告がありました。

プロデビュー戦では3試合目に登場し、最初は少し緊張した面持ちでしたが、試合が始まるといつもどおり冷静な様子で、身のこなしも軽く4ラウンドを全力で戦い抜き、判定の結果3-0で見事勝利を収めました!!無事勝利を飾った坂本さんは、広報室が行った事前インタビューの際、「試合が終わったら食べたいものは“ラーメン”」と答えていたので、勝利後のお祝いご飯はラーメンだったのではないのでしょうか。

今後は、新人王を狙うとともに、「チタニアナノチューブの形成メカニズムの解明」というテーマでの卒論執筆と来年度の大学院入試に向けて勉学に励むとのことでした。



勝利ポーズの坂本選手



ファイティングポーズの坂本さん(左)と桐山副学長(右)



デビュー戦の様子

夢基金だより

基金へのご支援のお願い



理事長兼学長 西澤良記

本学は「大阪市立大学夢基金」を平成26年10月1日に設立し、より高度な教育・研究の推進等をすすめることといたしました。

本学が今後も皆様に愛され、夢のある魅力あふれる大学であり続けるために構成員一同、より一層の努力を重ねてまいります。

今後とも本学の展開にご注目いただきますとともに、本基金の趣旨をご理解いただき、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

大阪市立大学夢基金の概要

個人、団体を問わずご賛同賜り、大阪市立大学にいただいたご寄附は以下の事業に活用いたします。

- 1 **グローバル人材の育成**
国際的な知的インフラ、知的拠点を目指して
- 2 **キャンパス施設・環境整備**
快適な環境づくりを目指して
- 3 **教育・研究・医療環境の充実**
より充実した教育・研究・医療環境づくりを目指して

大阪市立大学はばたけ夢基金の実績 (H21.10.1~H26.9.30)

総募金額 7億5千4百万円

はばたけ夢基金による支援事業

- 奨学金事業
- グローバル人材育成事業
 - 海外留学・渡航する学生を支援
- 教育研究支援事業
 - 健康・予防医学に関する事業
 - 平成25年度大阪市立大学国際シンポジウム等
 - ボート祭等に使用するボートの購入
- 社会貢献事業
 - 東日本大震災により被災された学生の経済的支援
- 施設整備事業
 - 外国語特別演習室機器更新(ふるさと納税)
 - JR杉本町駅東改札建設に伴う構内施設整備(ふるさと納税)
 - さくら通り・南部ストリート・理工地区北口の植樹
 - 学術情報総合センター屋上庭園の設置
 - 田中記念館の同窓会館化



大阪市立大学夢基金への引継額 8千5百万円(H26.10.1~)
 大阪市立大学はばたけ夢基金へのご支援ありがとうございました。

新たな大阪市立大学夢基金への更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

税制上の優遇措置について

【個人の場合】

大阪市立大学へのご寄附は、寄附金額より2千円を引いた金額について、所得控除を受けることができます。また、大阪市民税及び大阪府民税(平成27年1月1日より)の税額控除の対象となります。

※寄附控除を受けるためには、確定申告が必要です。

【法人の場合】

全額を損金算入することができます。

ご支援をお考えくださる方は、大学サポーター事務局までご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。

お問い合わせ

大学サポーター事務局(大阪市立大学夢基金)

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

TEL : 06-6605-3415(平日9時~17時) FAX : 06-6605-3416

Eメール : yumekikin@ado.osaka-cu.ac.jp

ホームページ : <http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/fund/index.html>

就職支援情報

採用広報活動の開始時期が変更になりました！

いよいよ3月から
採用広報活動スタート！！

2016年3月卒業予定者より採用広報活動時期が変更となります。3ヶ月繰り下げの2015年3月から開始となり、学業や部活等学生生活に専念する時間が取れるようになる一方で、採用選考の期間が短縮されることから、面接が始まってから内定まで“スピード勝負”になることが想定されます。

また、スケジュールや選考時期は、各業界・各社により異なることが予想され、本格的なスタートに備えて、遅くとも採用広報開始までには、採用選考に必要な準備が不可欠となります。

【学内企業セミナー】を開催します！！

3/2～4/27までの28日間で、約500社が高原記念館に大集結！

学内企業セミナーは、学生に対し業界動向や求める人材ニーズとその育成プログラム等について、企業や官公庁の人事ご担当者様にお越しいただき、直接ご教示いただくというものです。また、採用における広報活動の場として、今年度は約500社が参加します。

学生が一日で複数の企業のブースを回ることができるよう、開催時間は12時～17時と設定しています。

※参加企業・詳細等は、HPをご覧ください。

http://www.osaka-cu.ac.jp/education/career_support/jobhunt/guide/guide_h26

就職支援室 倉家祥子係長



就職支援室



就職支援室では、企業セミナーなどの就職支援に関するイベントの企画・運営や就職ガイダンスの実施、個別指導(進路・就職相談、履歴書・ES添削、面接練習等)、求人票・インターンシップ情報の提供、就職関連図書の貸出等を行っています。就職活動に関する疑問や悩み事などがあれば、一度、学生サポートセンター1階の就職支援室までお越しください。支援室の職員が学生一人ひとりの成長を見据えたアドバイスやサポートをさせていただきます。

フェイスブック

「Facebook」
はじめました！

平成26年12月より、大阪市立大学公式Facebookがオープンしました。学内で開催されるイベントから普段のちょっとした出来事まで、多種多様な情報を掲載しています。ぜひご覧ください！



大阪市立大学公式 Facebook が

オープンしました！

～役に立つ、楽しい、大学の情報を
タイムリーにお知らせします～



Facebook

大阪市立大学公式Facebookページ



<http://www.facebook.com/OsakaCityUniv>

大阪市立大学広報誌

CITY
X
UNIVERSITY
Vol.17

発行：公立大学法人 大阪市立大学
企画・編集：法人運営本部 広報室
デザイン協力：desk
発行日：2015年2月

本誌に関するお問い合わせ・ご意見・ご感想は
大阪市立大学 法人運営本部 広報室
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
e-mail：t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp

本誌に掲載の写真および原稿の無断転用を禁じます

グローバルな都市研究・教育拠点



大阪市立大学
OSAKA CITY UNIVERSITY

杉本キャンパス

商・経・法・文・理・工・生活科学 各学部・各大学院研究科・本部
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

阿倍野キャンパス

医学部・大学院医学研究科・大学院看護学研究科・医学部附属病院
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

梅田サテライト

大学院創造都市研究科・文化交流センター
〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階

<http://www.osaka-cu.ac.jp>